



プレスリリース

マラソン・アセット・マネジメント
株式会社 LIXIL グループの定時株主総会において
株主提案(第 2 号、第 3 号議案)に賛成、会社提案(第 1 号議案)に反対

【東京 2019 年 6 月 14 日】 マラソン・アセット・マネジメント (以下、マラソン)は、株式会社 LIXIL グループ(以下、LIXIL)の定時株主総会において、株主提案(第 2 号および第 3 号議案)に賛成、会社提案(第 1 号議案)に反対することを決定いたしましたので、お知らせいたします。

マラソンは過去 16 年以上にわたり LIXIL 株を保有しております。今回の定時株主総会での取締役選任においては、①ガバナンス不全を正し、株主の信頼を取り戻せる候補者、②現在の経営の混乱を早期に収束させ、LIXIL の事業を理解した上で潜在価値を顕在化させることのできる候補者を望んでいます。今回の会社提案と株主提案を精査した結果、株主提案がより優れており、LIXIL の経営の正常化と中長期的な成長に資すると判断いたしました。

マラソンは他の国内外の株主と共に、LIXIL に対し、ガバナンス不全の是正と自浄能力の改善を求めて臨時株主総会の開催を請求しましたが、潮田氏と山梨氏の唐突な辞任を受けて、その請求を取り下げました。しかしながら、その後の会社側の対応や言動は株主の不信感を増幅するものでした。ガバナンス不全を是正するためには、経営者が株主の信頼を取り戻すことがその第一歩となるはずですが、むしろ会社側からは株主に対して敵対的な言動が繰り返されました。

マラソンも指名委員の皆様と面談に臨みましたが、その内容は指名委員の主張の一方通行でした。マラソンとしては、前 CEO 解任前に提示されていた中期経営計画の実現、事業の継続性を鑑み一定程度の社内取締役の確保の重要性などを訴えましたが、聞き入れていただいた形跡は全くありません。むしろ、指名委員が示された継続性の担保のためにも数名の取締役の再任は必要、という考えも覆されています。面談では CEO 候補として山梨氏を指名することに含みを残されていましたが、その不人気ぶりを鑑みたせいか、社外取締役候補の三浦氏を暫定 CEO という人事案が唐突に示されました。そこに一貫したビジョンは見えません。

今回の会社提案(第 1 号議案)の取締役候補は、全員が新任、うち社内候補が 1 名のみ、また別途に示された CEO 候補も新任の社外取締役となっています。マラソンを含めて指名委員と面談した株主が望んだものとはほど遠いものであります。社内候補者を除き、いずれの候補も LIXIL の実情や事業を理解されていない方々であり、先に発表された暫定執行陣についても経営方針は全く不明です。経営方針が見えない取締役候補者に、資産を託すことはできません。また、唯一の社内候補の方に人事案の素案の権限が集中する可能性も高いと懸念します。また、ご本人の承諾がないまま株主案の候補者 2 名を会社案に含めるとする行動にも正当性や誠実さを感じる事ができず、信頼を持ち得ません。



株主提案(第2号議案、第3号議案)における取締役候補が選任されることは、ガバナンスの是正、事業の継続性および実行性においても、株主の信頼を確保できるものと判断しています。前 CEO の瀬戸氏による経営が市場の評価を得ていたことは、突然の CEO 交代後の株価下落をみても明らかです。また、交代前に提示されていた中期経営計画については事業の方針性や戦略も明確で、株主として支持できるものとみています。各地域・部門の事業を執行・監督する幹部らで構成するビジネスボードのメンバーの多数が、前 CEO による経営を支持していることから、LIXIL の経営を早期にかつ円滑に改めて軌道に乗せることができると判断しました。

我々株主が LIXIL 株を保有しているのは、LIXIL の企業価値の向上に期待しているからにほかなりません。株主の信頼を得て LIXIL の価値向上を実現できるであろう取締役候補は、会社提案ではなく株主提案にあるとみています。

以上

マラソン・アセット・マネジメント(Marathon Asset Management LLP)について

1986 年設立。英ロンドンを拠点とする独立系非公開の投資運用会社。機関投資家の資産を長期的、時に逆張り戦略でグローバルの株式に投資している。運用資産残高は約 600 億ドル(2019 年 1 月 31 日現在)。

報道関係者からのお問い合わせ先:

マラソン・アセット・マネジメント(マラソン・ロンドン・東京事務所)

高野雅永 / MKono@marathon.co.uk / 090-1255-4211